

言語文化部会 平成30年度の研究方向

部長：揖斐川町立坂内中学校 清水 裕樹

1 昨年度までの歩みより

昨年度は岐阜県で全国大会を執り行った大きな一年であった。言語文化部会においても、研究主題を「言語文化に親しみ、生活につなげる能力の育成～古典の世界を身近に感じる指導の工夫～」と設定し、地域に伝わる古典教材の開発を中心に、飛騨地区の先生方と3年間力を合わせながら、実践に励んだ。また大会当日はその実践の積み重ねを基に、岐阜市立加納中学校に於いて、河合のぞみ教諭に第3学年「おくのほそ道」の授業を公開していただいた。150日超の芭蕉の旅程を体験し、結びの地である大垣での作者の気持ちに思いを馳せることで芭蕉の生き方から自分の生き方を見つめていく、生徒の力強い学習の営みを全国に示すことができた。

言語文化部会として、3年間実践を積み重ねることで得た成果と課題は次のようである。

【成果①：「親しむ」姿の具体化→手立てや評価規準の明確化】

言語文化部会としては、学習指導要領にある「親しむ」＝「作品や作者を身近に感じること」とであると定義した。つまり、歴史上のものとして平面的にしか捉えていなかった作者や作品を、明確なる信念をもって書いた（もしくは書かれた）血の通ったものなのだと、生徒が立体的に捉えられることであると考えた。古典との心的距離が近くなることで、生徒自身が古典に自ら歩み寄り、自己の生活や生き方と比較し次への一歩を生み出していく姿を目指し、授業構想を行った。そのことにより単元で目指すべき生徒の姿が明らかになり、単位時間においても「どの時間帯」に「どのような姿」を生み出していくことが必要であるかが明らかになり、手立てや評価規準が明確になった。

【成果②：地域教材の活用→前時とのつながり・「親しむ」生徒の育成】

地域に伝わる古典作品の中で「生徒の実態に合うもの」でなおかつ「教科書教材とつながるもの」という条件で発掘することが容易ではなかった。地域の有識者に話を聞いたり、図書館資料を検索したりと3年間の中で何度も、地域の古典を教材化するために奔走した。そのかいもあり、教師自身がその古典作品に流れる歴史的背景等、作品や作者に対する深い見識をもって授業を構想することにつながった。それにより、単位時間ごとの指導に一貫性や連続性が生まれ、前時のつながりを意識させながら指導することができた。また、授業のなかで内容解釈に留まるだけでなく、そこに流れる人々の生き様や営みを感じさせる指導につながり、より古典を身近に感じ、「親しむ」生徒を生み出すことができた。

【課題：古典に「親しむ」ことは「資質・能力」である→手段と目的を混同しないこと】

3年間の飛騨地区の先生方の実践により、多くの古典教材を開発することができた。しかし、先述したように地域の古典作品を教材化するには、多くの労力を要する。ともすれば、教材を開発することが目的となってしまうがちである。また、「親しむ」ことを安易に「楽しい」と捉え、生徒が楽しむことだけを目的とした言語活動を設定してしまうこともある。次期学習指導要領において、古典に「親しむ」ことは、私たちが付けさせるべき「資質・能力」とであると位置付けられたことを強く受け止め、今後も学習者と古典との接点を大切にしながら、何が目的であるかを見失わず、系統的に授業を展開していくことが大切である。

2 次期学習指導要領で求められていることから

今回の学習指導要領改訂で、従来「3領域1事項」に分けられていた指導事項が、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直された。この〔知識及び技能〕について、学習指導要領解説にはこう定義してある。『知識及び技能』は、個別的事実的な知識や一定の手順のこのみを示しているのではない。国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く『知識及び技能』として身に付けるために、思考・判断・表現することを通じて育成を図ることが求められる。つまり、従来、言語文化部会として研究を進めてきた分野は〔知識及び技能〕に統合され、思考・判断し表現するために必要な技能としての知識を育成していくが引き続き求められているといえる。

また、深い学びの実現の鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要であると明記されている。国語科でいう「言語による見方・考え方を働かせる」とは「生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである」と定義されている。つまり、感覚的に言葉を使っていくのではなく、正しい根拠を基にして言葉を自覚的に用いていくことが深い学びには必要であるといえる。

さらに、この〔知識及び技能〕には従来「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に整理されていた内容に加え「情報の扱い方」が新設された。ここでいう「情報」とは、「話や文章に含まれている情報」「自分のもつ情報」のことである。急速に情報化が進展する現代社会において、様々な媒体から必要な情報を取り出したり、整理したり、また自分自身で発信したりすることが、今求められている。国語科においても「情報と情報との関係」を捉えたり、「情報の整理」を行う力を身につけたりすることで、正確に理解し適切に表現することにつながると書かれている。

以上のことより、語彙や表現等が単体としての知識ではなく、相互につながり合った総合知として構成していくことが必要であり、その鍵が「言葉への自覚」を高めていくことであるといえる。

3 全国学力・学習状況調査の結果より

「平成29年度全国学力・学習状況調査 結果から明らかになった岐阜県全体の成果と課題」（岐阜県教育委員会発表資料より）を見ると、「Ⅲ 経年でみて、依然、課題として捉えられること」の項目に、「事象や行為などを表す語句が多く存在することに気付き、実際の言語活動においてどのように活用するかを考えること（伝国1年（1）イ（ウ）」の設問番号⁹五が挙げられている。この設問の岐阜県全体の正答率は33.8%と、約3分の1の生徒しか正答できていない。他の言語に関する問題の正答率が、全て6割を超えていることから考えても、この設問の正答率の低さは突出している。もちろん、この一問だけで全てを量ることはできない。しかし、この設問の正答として求められている「保留」という熟語自体は小学校5年生の教科書に出てきており既習であることから考えても、その熟語を「理解していない」というより、この設問の状況と「保留」という言葉を結び付けることができなかつた生徒が6割近く存在したのだと考えられる。

また、設問番号⁹三には、設問番号⁹五と同じように文に当てはまる適切な言葉を考えることが問われた問題が設定されている。しかし、設問番号⁹五とは違い全て選択式である。その場合の正答率は、ほとんどが8割を超える。決して、岐阜県の生徒は語彙力自体が乏しいのではない。正しい言葉を適切に使っていく力も付いている。しかし、より実践的により社会生活の場をイメージして広く大勢の人々に伝わる言葉を用いられているかという点、まだまだ課題があるといわざるを得ない。まさに、先述したように次期学習指導要領にも書かれている「言葉への自覚」をより一層高める指導を行っていくことが必要なのではないかと考える。

以上の1～3を踏まえ、平成30年度言語文化部会研究主題を次頁のように設定した。

4 H30年度 言語文化部会研究主題について (案)

中国研 研究主題 **生きてはたらく言語能力の育成**
 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

《言語文化部会として目指す生徒の姿》

- ・ 社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ・ 国語の知識や技能を社会生活において様々な場面で主体的に活用する生徒
- ・ 古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒

《言語文化部会 研究主題》

言語に親しみ、生活につなげる能力の育成
 ～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

《研究仮説》

- ・ 様々な言語活動の中で登場する語句の辞書的意味を正確に捉えるとともに、社会生活においてどのように活用していくとよいのか考える活動を設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。
- ・ 古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材分析を行い、身近なこととのつながりを意識させる言語活動を設定すれば、古典に親しむ生徒を育成することができる。

《研究内容》

- ① 「言葉への自覚」を高める指導計画の工夫
 - (1) 言葉の活用場面を明確にした言語活動の設定
 - (2) 学ぶ魅力・必然性のある教材開発
- ② 「言葉への自覚」を高める指導援助の工夫
 - (1) 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫
 - (2) どの生徒も「言葉への自覚」を高め、言葉に親しませるための手立ての工夫
- ③ 評価の工夫
 - (1) 生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる場の位置付け

5 今後の研究の見通し

日にち	会合名等	場所	具体的な内容
7月末	◆第1回「言語文化部会」		○授業研究会（提案授業）
8月初旬	「明日の授業を考える会」	未定	○授業相談
8/20(月) (県統一研究日)	夏季研修会 ◆第2回「言語文化部会」	岐阜市教育研究所	○前年度全国大会授業発表（河合） ○部会の実践提案
10/27(土)	◆第3回「言語文化部会」 授業研究会（中間発表）	岐阜市 青山中学校	○一川先生の御授業から学ぶ
11/9(金)	◆第4回「言語文化部会」 授業研究会（本発表）	岐阜市 東長良中学校	○足立先生の御授業から学ぶ
11/10(土)	◆第5回「言語文化部会」 授業研究会（中間発表）	岐阜市 加納中学校	○河合先生の御授業から学ぶ
12月下旬	「明日の授業を考える会」	未定	○授業相談
2/20(水)	□研究総会、代議員会	岐阜市教育研究所	○本年度の成果と課題をまとめ、平成31年度の方向を決定 ○実践発表を通して、本年度の歩みを県下に発表